

< 研究助成 2017 年度選考結果 >

ATI 副理事長 選考委員長 森田 清三
(大阪大学名誉教授)

ATI 研究助成は 35 歳以下の若手研究者を育成する特色ある事業である。今年度も対象とする研究領域を“ナノサイエンス”とし、募集要項に「“ナノサイエンス”は、ナノスケールの微細な材料やデバイスを学際的・融合的に研究する新しい科学技術分野です。ナノの領域での将来の新研究領域の形成につながる萌芽的研究、チャレンジングな研究、常識を覆す独創的研究と、ナノ領域の新探索手法となる革新的計測・分析・評価・加工方法等を含みます」と掲げて公募した。

今年度の募集期間は 2017 年 6 月 1 日～6 月 30 日とした。その結果、111 件（過去最高：研究助成トレンド情報参照）の申請書提出があった。各申請者が最大 5 件を選択したキーワード件数を集計すると、上位は、ナノ構造体・集積体 41 件（去年は 44 件）、ナノ界面・ナノ表面 40 件（32 件）、ナノ粒子・ナノクラスター 27 件（20 件）、ナノバイオ 20 件（17 件）、ナノ空間・ナノ空孔 20 件（15 件）などで、ATI の研究会毎に関係キーワードを合計すると、界面ナノ科学研究会 69 件、バイオ単分子研究会 71 件、スピントロニクス研究会 56 件、ナノカーボン研究会 45 件、水和ナノ構造研究会 31 件、その他（ナノ構造体・集積体、ナノ粒子・ナノクラスター、ナノ空間・ナノ空孔など）101 件であった。応募者の主要所属先は、化学 41 件、材料 25 件、バイオ 24 件、物理 19 件などであった。

今回、まず、外部選考委員と ATI 研究会委員長を含む 10 名の委員で一次書類審査を行い、順位を付けて各 5 件選択（絶対評価）し、二次書類審査候補として 111 件の応募から 17 件を選んだ。次に、17 件全てを 8 名の委員で相対評価して再度順位を付けた。最後に、8 月 31 日に新世代研究所において選考委員会の委員 6 名による討議で採択テーマ候補を定め 9 月に理事会で承認された。なお助成金総額は 1,000 万円で、各 100 万円を 10 名に助成し、10 月 1 日から 1 年間の研究助成を行う。

大まかな分野分類では、バイオ 1 件（去年は 3 件）、材料・化学 2 件（4 件）、物理・物性・+ デバイス 7 件（3 件）となった。別の分類として、研究題目に、計測・観察・手法・検出法・解析・解明・評価の単語が入っているものが 3 件（去年は 2 件）、開発・設計・応用が入っているものが 4 件（3 件）、素子・デバイス・創成・センサ・メモリ・電池などが入っているものが 4 件（1 件）あった。

最後に、お忙しい中を選考に協力して頂いた ATI 研究会委員長と選考委員に謝意を表す。

研究題目	名前	所属機関
超高分解能原子間力顕微鏡による C1 化学反応の単原子レベル解析	塩足 亮隼	東京大学
ナノスケールインダクタの開発	田辺 賢士	名古屋大学
金属-絶縁体相転移による近接場界面の熱輸送制御	上野 藍	名古屋大学
高速 FM-AFM を用いた鈹物結晶溶解過程の原子スケールその場観察	宮田 一輝	金沢大学
遠紫外光を利用したナノ表面選択的な超高感度表面プラズモン共鳴センサーの開発	田邊 一郎	大阪大学
プラスチック上多層グラフェンの創製と革新二次電池への応用	都甲 薫	筑波大学
有機分子自己組織化膜における二次元超伝導	吉澤 俊介	物質・材料研究機構
二次元物質におけるバレーンスピン量子現象のデバイス制御	篠北 啓介	京都大学
シクロファンを用いた機械的刺激を鋭敏に検知する複合材料の開発	相良 剛光	北海道大学
ウイルス酵素の分子ライブイメーシング剤開発による感染機構解析	紅林 佑希	静岡県立大学

< 研究助成データ 再開後 6 年間 (2012-2017) >

